

累計出荷台数300万台突破、出荷比率は半数を超える(53%)

洗浄水量6L以下の便器が主力商品に

～全ての便器の節水化でCO₂ 約63万トン削減可能～

日本衛生設備機器工業会(会長:木瀬照雄)では、このたび節水便器に関する出荷統計調査を実施しました。その結果、洗浄水量が6L以下の便器(以下「節水便器」という)出荷台数が、**累計で300万台を突破**し、あわせて、洗浄水量が6Lを超える便器の出荷台数を上回っていることが判明しました。

近年、急速に普及している節水便器ですが、本年9月末には累計出荷台数が300万台を突破しました。また、本年4月に初めて出荷比率が逆転し、**4～9月の出荷比率は53:47(6L以下:6L超)**と節水便器が半数を越えました。

各メーカーとも節水便器を昨年までに発売しており、また、品揃えも充実させていることから、今後、ますます普及していくものと予想しています。

なお、日本の便器すべてが節水便器(6L以下)に置き換わった場合、1年で**約10億6000万 m^3 もの節水(東京ドーム854杯分)が実現**でき、**CO₂も年間で約63万t削減**できます。節水便器の普及は、**低炭素社会実現にも大きく貢献**します。

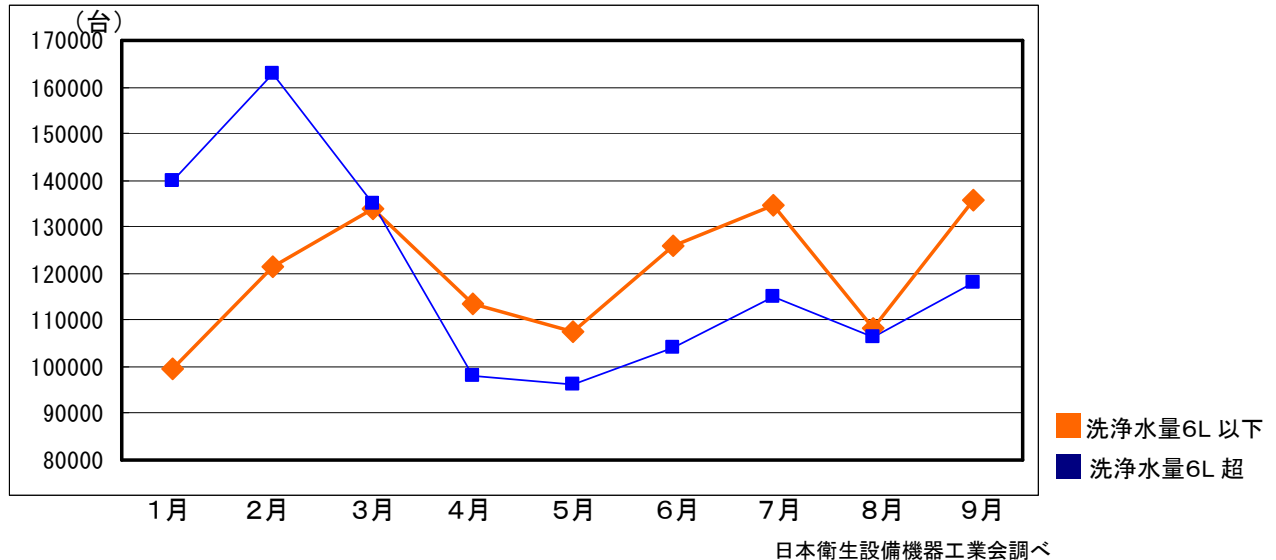
各社の代表的な節水便器

					
社名	アサヒ衛陶	INAX	ジャニス工業	TOTO	パナソニック電工
商品名	エディシリーズ	REGIO	イーフィットクリン	ネオレスト ハイブリッドシリーズ	アラウーノ

<参考>

1. 節水便器の出荷台数推移

2008年の節水便器の出荷台数の推移をしてみると、4月に洗浄水量が6L以下の便器が、6L超の便器を上回りました。



2. 節水量・CO2削減量 試算方法 (日本衛生設備機器工業会推定)

(1) 水洗便器の市場ストック個数

約7,101万台

(2) 水洗便器使用人数

約11,359万人

(3) 1日1人当たりのトイレで使う水量

6L超便器使用の場合: 約57L/日・人

6L以下便器使用の場合: 約31.5L/日・人

(4) 年間削減水量

$11,359万人 \times (57 - 31.5)L/日 \cdot 人 \times 365日 = 1,058,374,418m^3$

(5) 年間CO2削減量

$1,058,374,418m^3 \times 0.59 = 624,441t/年$

* CO2削減量(Kg) = 節水量 m^3 × 0.59

※常緑樹に換算すると約4,460万本/年相当

参考資料

住宅・土地統計調査(平成15年)

建物別ストック統計研究会報告書(2002年11月)

環境省 大臣官房廃棄物・リサイクル対策部 廃棄物対策課「日本の廃棄物処理 H17年度版」

省エネ・防犯住宅推進委員会「省エネ・防犯住宅推進アプローチブック」

総務省統計局 統計データ「第2章 人口・世帯」(2005年度)

総務省統計局平成18年10月1日現在総人口